

友好都市コーナー

キャンプまつさかり!

日本三大開拓地交流
宮崎県 川南町



激励会の様子

宮崎といえば「キャンプ!」ここ川南町でも3月の下旬まで社会人、大学の野球、ソフトボールの6チームが次々とキャンプインしてにぎわいをみせています。
温暖な気候や川南町民の歓待が好評で、キャンプ地としてすっかり定着しています。
また、町も防球ネットを新設するなどして、万全の態勢で歓迎しています。町の中心部にある運動公園野



キャンプの様子

球場では、選手の掛け声やバットで球を打つ金属音などが絶え間なく響いていて、見学者も声援を送るなど、ほほえましい様子がみられます。
チームへの激励会も行われ、チームの監督や選手からは、「人柄も温かく川南町民があいさつをしてくれるのに驚いた」「気候が暖かく、夜は星がきれい」「食べ物おいしい」など川南町のことをとても気に入った様子でした。

桂月の文学碑を訪ねて ⑫



「かすみたる
下界を四方にみおろして
我ひとりたつ 堅雪の山」

「鶯や 脚下積雪 雲の海」



「鳶温泉帖」より

道の駅「奥入瀬ろまんパーク」に、桂月の紀行文とともに八甲田を詠んだ歌が2首刻まれています。桂月は

十和田湖、奥入瀬と同じく八甲田も好み、中でも春先の堅雪の八甲田をとても好んだといえます。

桂月は、妻へ書簡を送っています。

『5月はじめの頃の奥州の山千尺以上なほ残雪有之。山毛櫨もほつく新緑を出し申候。その残雪かた候。処によりて深さ一丈、又二丈、又五六丈も有之候。踏みても足陥り不申。急なる傾斜面を斜断して上りても危なからず候。而して一丈もある根曲り竹など雪の中になり居り候。密生してこれを分け上るは困難に候。然るに堅雪の時はこれが埋もれ居りて歩くにらくに候。夏ならば難行苦行して漸く上下する溪谷を堅雪の時は無造作に上下いたし申候。暑からず寒からず実に堅雪の山は気持ちよく候。』と、堅雪の八甲田登山の魅力を伝えていきます。

堅雪を歩く様子を描いたユーモラスな絵は、桂月自身が描いたもので『鳶温泉帖』から転写しています。文学碑は、平成9年に桂月の来町(旧十和田湖町)90周年を記念して建立されました。

問い合わせ先

総務課(☎23511)